

ISO/IEC 2022 は、文字コード (符号化文字集合) の構造と拡張法を定める ISO と IEC による国際規格です。標題を「 Information technology -- Character code structure and extension techniques 」としています。最新版は 1994 年版です。

日本の対応規格は JIS X 0202 です。標題「 情報技術 文字符号の構造及び拡張法 」。最新版は 1998 年版です。

この規格によれば、ASCII と同じように 0x20 から 0x7F までの領域を図形文字として使う文字コードを、組み合わせたり切り替えたりして複数用いることができます。

各種文字コード規格との関係

ISO/IEC 10646 以前の主要な国際・国内の文字コード規格は ISO/IEC 2022 と整合的な構成をしています。ISO/IEC 646, ISO/IEC 8859, JIS X 0201, JIS X 0208, そして JIS X 0213 もそうした文字コード規格です。

したがって、これらの文字コードは、ISO/IEC 2022 の枠組みによって組み合わせ・切り替えて多言語運用が可能です。ISO-2022-JP-2 はそのような符号化方式のひとつです。

エスケープシーケンス

ISO/IEC 2022 は符号化文字集合の切り替えにエスケープシーケンスを用いることがよく知られていますが、この規格とエスケープシーケンスは同じではありません。符号化文字集合の指示 (designate)・呼び出し (invoke) を行った状態を前提にすればあとは一切エスケープシーケンスを用いない運用も可能です。EUC-JIS-2004 などの各種 EUC 方式や ISO/IEC 8859-1 などもこれを行っているものと解釈できます。

JIS X 0213 との関係

JIS X 0213 が定める漢字集合 1 面、漢字集合 2 面というふたつの符号化文字集合は、ISO/IEC 2022 と整合的です。

また、JIS X 0213 の規格本体で定める 6 種類の符号化は、漢字集合 1 面・漢字集合 2 面・ISO/IEC 646 国際基準版 (ASCII と同等)、JIS X 0201 ラテン文字という複数の符号化文字集合を ISO/IEC 2022 の枠組みに沿って 8 ビット符号表への割り当てを行ったものになっています。附属書 3 の EUC-JIS-2004 も同様です。

JIS X 0213 の附属書 2 で定義される ISO-2022-JP-2004 は、ISO/IEC 2022 で用いられるエスケープシーケンスによって符号化文字集合を切り替える 7 ビットの符号化方式です。

関連項目

- ・ エスケープシーケンス